

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「土壌の酸性化機構の解析と生物による酸性土壌の新規修復技術の開発」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:学校法人 日本大学 生物資源科学部 教授 長谷川 功

2-2. 中国側研究代表者:中国科学院 土壌研究所 教授 Shen Renfang

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

酸性土壌修復という今日的な課題解決型研究で、両国の研究スキルやシーズを相互補完しながら研究を進め、今後の展開が期待される萌芽研究などが始まったことは非常によい成果といえる。研究成果の適用により、食料産業(農業)の生産性向上につながると思われる。一方で、開発課題にも挙げられている土壌の酸性化機構の解明に関する成果の記載がないのは残念であった。

(2)交流成果の評価について

日本側・中国側を合わせて300日近くと非常に多くの交流を精力的に実施することにより、幅広い人的ネットワークの構築と相互理解ができたことは評価できる。初対面の研究者同士がゼロからスタートした共同研究によって相互信頼を得て継続的な研究発展の基盤を作ったことは、本事業の趣旨に合致した成果といえる。中国の土壌試料の遺伝子解析を日本でも実施できるような関係を築くことができればさらに良かったと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

当初3人だった研究メンバーを14名に逐次体制強化することにより、研究の充実と交流活発化を実現したことは、当初計画時の検討不足は否めないものの、評価できる。ただし、単独では多くの論文・学会発表を行っているが、共著論文がないのは残念な結果である。共生菌の生産する多糖のアルミニウム吸着能に関する成果は、酸性土壌における植生回復技術の開発につながるものと期待される。今後、産学連携による実用化に向けた研究が行われることが期待される。